

早 稲 田 大 学

図 書 館 紀 要

第 五 号

セントラリゼーション

大 野 實 雄

自然は生きてるものを去るものと来るものに分類する。去るものは宿命を知るが、来るものはそれをしかと意識しない。大隈老侯の百二十五年祝賀や春城先生の百年記念もすぎ、こんなことをおもう此頃となった。

野の大樹は草原を飾った落葉や枯枝を育てた幹から、新しい枝を伸ばしている。成長するにつれて枝は幹から遠ざかるけれども、それによって均整のとれた容姿がつくられていくのである。

セントラリゼーションとは、こうゆうものかも知れない。

昭和三十八年十二月